

平成30年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1494200023	事業の開始年月日	平成22年12月16日	
		指定年月日	平成22年12月16日	
法人名	株式会社 メディカルケアシステム			
事業所名	グループホームちいさな手 海老名ふれあいの丘			
所在地	(243-0410)			
	神奈川県海老名市杉久保北2-18-25			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名	
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18	名
		ユニット数	2	ユニット
自己評価作成日	平成30年9月5日	評価結果 市町村受理日	平成30年11月26日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様の意思を尊重し、ご家族様のニーズに応えながら、専門の職員が24時間体制で、きめ細やかな介護を行ってま。医療連携も充実しており、訪問医と看護師が入居者様の体調管理を行ってま。菜園では四季の野菜を種植えから収穫、調理までを入居者様と職員と一緒に楽しんでいます。レクリエーションにおいても、五感に働きかける催し物や外出レクを行い、四季を感じて頂く事を大切にしています。地域開催の盆踊りや夏祭り、他施設の催しにも参加し、地域交流を深め、地域連携や自立支援を大切にしております。日々のケアでは入居者様本意の介護を主とし、物事を選択できるような環境作りを行い、職員と一緒に物事を楽しめるよう支援を行ってま。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	平成30年10月12日	評価機関 評価決定日	平成30年11月14日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所は、小田急線または相模鉄道線海老名駅よりバスで15分ほど乗り、「城山」バス停から徒歩4分の住宅街にあります。2階建て2ユニットの建物です。
<優れている点>
週に1度以上レクリエーションの日があります。豊富なレクリエーションにより、入居者が生き生き元気になったと家族より言葉ももらっています。運試しレク、紙芝居レク、血管年齢測定レクなど多彩な企画で、入居者も職員も笑顔があふれています。有馬中学校合唱部、ハーモニカ演奏、日本舞踊のほか、多くのボランティアが来訪し、入居者の生活に楽しみや潤いを与えています。豊受神社夏祭りやコミュニティセンター祭りなど地域開催の行事にも積極的に出かけています。事業所主催の夏祭りは、近隣の住民にも声掛けしています。回を重ねるごとに参加者が増え、大盛況です。
<工夫点>
菜園があり、カボチャやサツマイモなどを栽培しています。何を植えるかという話し合いから、苗を購入し植え付け、収穫後の料理まですべて入居者と職員が行っています。介護計画書作成の際は、アセスメントシートや「私を分かってシート」を用い、入居者の思いや不安を傾聴してから、医療関係者や家族、本人を交えたサービス担当者会議で話し合っています。入居者の持てる能力を生かし、入居者主体の暮らしを反映した介護計画書になっています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホームちいさな手 海老名ふれあいの丘
ユニット名	1階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えています。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	法人の理念を掲げたクレドカードを毎朝の申し送り後、声を出して読むことにより、職員同士確認を行いながら日々の業務に取り入れ、浸透するように努めております。	事業所の理念は、毎年、職員全員で意見を出し合って決め、「ホーム新聞」に載せています。会社の理念や行動指針が記載されているクレドカードを、毎日職員全員で唱和しています。すべての人に敬意を払い、笑顔と思いやりを重視し、実践しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	自治会に加入し、回覧板を頂く事で、地域での催しものや他の施設の行事などに参加させていただいたり、ホーム内のレクの参加の声かけを行っております。コミュニティーセンター様からは良く椅子などをレンタルし、レクへの参加のお誘いをしています。	地域の行事、月1回開催される南高齢者福祉センターの演奏会や体操教室などに積極的に参加しています。職業体験学習生や合唱部の来訪、有馬中学校生徒などと触れ合う機会があります。事業所で行う夏祭りは、地域の人も訪れて大盛況です。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	職員に認知症について日々のケアの中や会議などで勉強会を設けて実践内容を学び、いつでも活かせるように理解度を深めております。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	自治会の役員、民生委員、海老名市役所、高齢介護課、地域包括支援センター、職員、ご家族、ホーム職員で運営推進会議を開催し情報交換や助言を頂きながら行っております。また、市議会議員の方からも参加したいとお声を頂き、参加していただきました。	半数以上の入居者家族や民生委員、自治会役員、海老名市職員など多くの参加者で2ヶ月に一度行っています。ホームの状況報告だけでなく、地域の情報を聞いたり、家族から率直な意見をもらう場になっています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議の案内状と議事録の作成時には直接海老名市役所へ出向き、ホームの状況を説明させていただいております。	海老名市高齢介護課に直接行き、相談や書類提出をしています。運営推進会議には市職員に入居者の暮らしぶりやニーズを理解してもらうよう努めています。市主催の防災セミナーに参加しています。地域包括支援センターと協力関係を築いています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	門扉を開放しておりますので、玄関は施錠をしております。1階と2階のフロアを行き来できるようにフロアの出入り口の施錠は行っておらず、自由に行き来できるようにしております。3ヵ月に一回身体拘束に関しての会議を開催し、職員に周知をしております。身体拘束は行っておりません。	どのようなことが拘束に当たるのか、3ヶ月に一度研修を行っています。繰り返し研修を行うことによって、入居者の安全を確保しつつ自由に暮らせる支援について再確認をしています。玄関は施錠していますが、入居者が外に出たい時は職員が同行して外に出る対応をしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	毎月全体会議、フロア会議を開催し、虐待について検討を行っております。管理者はホーム内での虐待の見逃しがないかを日々確認しております。小さな打ち身も見つけた時はヒヤリハット報告書を作成し検討、周知を行っております。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見人制度を必要とするケースには、管理者が対応をしております。必要に応じて随時職員に説明を行い、利用者の支援に結びつけております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には契約書、重要事項説明書を説明し、不安や疑問を伺い回答させていただいた上でご理解、納得をしていただき、同意書をいただいております。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族会において意見をいただいております。来訪された際やお電話でもご意見を頂いております。頂いた意見は全体会議の議題として検討を行っております。	毎月、入居者の暮らしぶりを手書きで書いて家族に送っています。面会に来る家族も多く、職員全員が家族と何でも話し合える環境です。年に一回アンケートを実施して、家族の思いを積極的に聞いています。要望は、速やかに対応するよう努めています。	日常の散歩や外出の機会を増やしてほしいという家族の要望があります。再確認し、実践の見える化などで家族の理解を得る工夫も期待されます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	随時、職員に声を掛け、傾聴を行っております。毎月1階と2階のフロア会議を行い、意見や提案を発言していただいております。	職員会議を月に一回行い、職員の意見や提案を積極的に取り入れています。個人面談は2ヶ月に一度あり、風通しの良い職場作りを目指しています。入居者との日常的なかかわりの中で生まれる職員のアイデアを運営に活かしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員のストレスや疲労の要因に気を配りながら声かけを行い、日々の様子に注意を払っております。また、職員のやりがいに繋がるようにパート職員の社員昇給も行っております。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	外部研修の情報集めに努め、職員の力量に応じ研修参加を促し、勤務状況を調整しています。介護技術の向上においてはミーティングで説明を行ったり、実践の中で一緒に取り組みながら指導を行っております。また疑問を口に出せる環境作りを行っております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	近隣のグループホームの催し物や高齢者施設での催し物に参加させていただき、同業者との交流を行っております。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	御入居までの生活状態の把握とご本人の意向、思いを考慮したケアを行い、安心して生活して頂けるように職員との関係づくりを大切にし、何でも言ってもらえるような関係作りを行っております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族様が求めているものや苦勞、困っていること、これまでの経緯についてゆっくりと話を伺い、事業所としてはどのような対応ができるか、その都度色々な情報を伝えながらご家族様との信頼関係づくりを行っております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人様やご家族様の思い、その時の状況等を確認し、安心して頂き、納得してご利用していただけるよう可能な限り柔軟なサービスの情報提供を行っております。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	ご入居者様を人生の先輩という共通の認識のもと、日々の生活で喜怒哀楽を共にし、信頼関係を築けるように努めております。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	居室担当を決め、職員がご家族様に日々の様子や心身の変化を手紙にしたため、毎月お伝えしていく事でご家族様と情報の共有を行っております。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご入居者様が築き上げてきた交流関係を把握していき、訪問時には楽しい時間を過ごして頂けるようにしております。また、ご入居前に行っていた活動もそのまま継続できるよう支援を行っております。	家族や友人の来訪時は、気兼ねなく居室やリビングで楽しいひと時を過ごしてもらえるよう努めています。家族の支援で入居前から利用している美容院に行っている人が数人います。以前からの趣味を継続できるよう働きかけています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	日々の生活で楽しい時間を過ごしていただく為、ご利用者様同士の関係性を職員が共有し、レクリエーションや食事などお席へ誘導する際には親しいご入居者様同士が近くのお席になるように努めております。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	他の事業所に移られたご入居者様が不安なく継続性を持って生活できるようにアセスメントを細かく作成し、情報提供を行い、連絡があった際は速やかに対応して連携できるように努めております。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご利用者様をご自分で選択できるような声かけを行っております。また、思い出を引き出すような会話を心がけております。ご自分の思いをうまく伝えられない方には、表情や仕草などを観察したり、ご家族様に聞くなどをして思いを推し量っております。	職員は入居者の話を傾聴し、表情を読み取り、本意や思いを把握して、行き届いた支援に繋げています。職員が何でも決めてしまわずに、その日の過ごし方や席順や洋服など、「どちらにしましょうか」と声かけし、本人が選べるようにしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前に本人やご家族様に話しを伺ったり、担当されていたケアマネジャーさんより電話や書式にて生活歴やご家族様の意向を伺い、情報収集を行っております。知り得た情報は職員間で共有し、なるべく同じような環境で過ごせるよう支援をしております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	生活記録の中に職員との会話や日々のご利用者様の様子を記入しております。看護師からの連携事項や、一日のご利用者様の様子を職員間で引継ぎ、情報共有を行い、ご利用者様の現状把握に努めております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ご利用者様、ご家族様の希望を聞き入れながら医療関係者の意見を取り入れて三ヶ月ごとのカンファレンス、六ヶ月ごとのケアプランを作成しております。支援方法等、変化があった時はその都度作成をしております。	居室担当職員が入居者の楽しみや悲しみ、要望を聞きながら、一緒に『私をわかってシート』を作成しています。アセスメントを行った後、家族と医療関係者を交えて話し合い、介護計画書を作成しています。3ヶ月に一度計画を見直しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ケアプランにナンバリングを行い、ケアプランに沿った計画ができるように努めております。生活記録のファイルに作成したケアプランの用紙を入れ、必要なサービスの確認を行い、職員間で情報共有をしております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご本人様の意向、ご家族様の同意を得ながら買い物を楽しんで頂いております。また、通院や送迎等必要な支援にも個々の満足を高められる様、臨機応変に対応しております。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域でのお祭りやイベントに参加しております。また、事業所でのイベントに地域の方々のご協力を頂いたり、地域の集いに参加し、意見交流する機会を設けております。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	定期的な往診を受け、体調の変化等の相談を行いながら指示を頂いております。専門的な受診が必要な時は、ご家族様の協力を頂いたり、ご家族様の同行が困難な場合は職員が通院支援を行っております。	利用者の体調が崩れた時は、管理者へ通報し、看護師、医師の手順で指示を仰ぎ、対応を図っています。並行して利用者の家族へも連絡しています。管理者が不在時も対応できる手順となっています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週に2日の訪問があります。ご利用者様ごとに診て頂きたい事案を看護記録用紙記入し、日々の気付きを残し、看護師にアドバイスを受けています。看護記録を作成し、職員間で共有しております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者様が入院した際、看護サマリーを作成し、情報交換をしております。病院に様子を見に伺い、その都度様子を伺い、退院に向けた話し合いに参加させていただいております。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ご家族様に現状を説明し、同意書を交わし、今後の方針を主治医、看護師、管理者、職員が連携を密に取りながら対応を行っております。	重度化や終末期に向け、看取りに対応する仕組みが出来ています。利用者への看取りに対する手順書があり、その際は関係者と相談し、手順に沿って支援に当たっています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変や事故発生時には、まず何をすべきか、オンコール対応策を作成し、毎月の会議にて再確認を行い職員全員が把握できるようにしております。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	ご利用者様の安全確保ができるよう、夜間の想定を含め、年2回の避難訓練を実施しております。避難場所には近隣のコミュニティーセンターを利用させていただく事を自治会より了承を頂いております。	火災・地震・水害について通報・避難初期消火の訓練を実施しています。また、災害時の備蓄品は、事業所の屋外に保管されており、食料・飲料水のほかバーベキューセット・炭なども備わっています。期限の切れた飲料水はトイレ用に利用しています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	人生の先輩として常に誠意を持って誠実に接する事を心がけてケアを行っております。一人ひとりの得意な事を把握し、能力を発揮して頂くよう支援を行っております。また、不快な思いを感じさせないような声かけを心がけております。	レクリエーションや昼食準備、トイレなどへの声掛けは、殆ど「さん」づけです。レクリエーションでは、利用者の体力や能力に合わせてボールの速さ・強さを調整しています。いつでも利用者の人格を尊重した対応をしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご利用様が何でも話せる環境作りに努めており、ご自分で選択できるような声かけを行っております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	その日の体調や様子の変化見逃さないよう職員間で確認を行い、その日、その時のご本人の意向を優先し、ご利用者様のペースに沿って一緒に生活を行っております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	その日の体調や様子を伺いながら、ご本人の意向を優先し、ご利用様がして頂きたい内容に沿えるような支援を行っております。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	メニューと食材は業者に依頼し調理、盛り付け、配膳、下膳など一緒に行っています。ご利用者様の要望あればメニュー変更も可能です。菜園の野菜と一緒に収穫し、調理を行っています。同じテーブルを囲みながら楽しく食事ができるよう支援を行っています。	職員と利用者が一緒になって昼食の準備をしています。盛り付けや配膳をして、誤嚥予防の口腔体操の後、楽しい会話を交えた昼食をとっています。月に一度は、利用者の要望で9種類のパンバイキングなども行っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一人ひとりの状態にあった食事、水分摂取量を確認し、チェック表に記入しながら職員間で情報共有しております。しっかりと食事や水分が摂取出来る様に一人ひとりの好みや症状にあった提供を行っております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後声かけを行い、口腔ケアを行っております。仕上げの介助の必要な方は職員が確認を行っております。口腔ケアの介助が必要な方は口の中の状態を常に把握し、職員同士情報共有を行っております。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	「In/Outチェック表」により水分量・食事量と排泄パターンを一覧表に記録し、声かけによる前誘導を行いながら自立排泄が行えるように支援しております。	入居時の約2ヶ月間で利用者の排泄と水分摂取量を記録して、排泄パターンを把握しています。利用者の尊厳を保ち、適時の声かけを行い、失禁予防を行っております。居室にポータブルトイレを置き、夜間対応している人もいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排便チェック表を記入していき、排泄管理を行っております。自然な排便が行えるように毎朝体操を行ったり、歩いて腸内を活性化させております。また乳酸菌を飲用していただき、水分摂取量に注意を払いながら支援を行っております。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	基本的に週に2回の入浴を支援しております。毎日入浴が可能であり、希望に応じて調整しながら対応しております。入浴の際には職員との会話も楽しんでいただけるように努めております。	浴室は各ユニットに一ヶ所あります。浴槽の縁に滑り止めがあり、転倒防止に繋げています。入浴は基本的には同性介助となっています。入浴は週2回ですが、希望があれば入浴回数を増やしています。夏場、入浴のない日は、清拭で体の清潔保持を図っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	ご本人の意思で過ごす場所を選択して頂き休んで頂いております。過ごされる空間が快適に安心して過ごせるようプライバシーに配慮し、環境調整を確保しております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	処方されている服薬の用法を往診時に主治医又は看護師から説明して頂き、薬剤師にも質問できる機会があります。服薬に追加や変更があった際、そのご利用者様の様子を記録に残し、職員間で周知し、情報共有を行っております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	一人ひとりの得意な事、嗜好の好みを把握し、日々の生活に取り入れ役割を感じてもらえるよう支援を行ったり、趣味を通じて他者様との交流を楽しんでいただいております。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	週に2～3回の外出の機会があり、事業所近くの神社やお寺が散歩コースです。車でのドライブや外食、買い物などの支援も頻繁に行っています。事業所内での菜園では季節の野菜の種植えから収穫までの流れを行い、戸外の楽しみも充実しています。	週2～3回の外出のほか、菜園活動があり、植栽から収穫・食事までを楽しんでいます。また、近隣の掃除・草むしりなども行い、地域交流をしています。職員が、同行して中華街まで食事に行った例もあります。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	買い物や外食には職員が付き添います。ご本人が自らお会計をすることにより、お金に対する大切さを感じて頂く、以前行っていた動作を忘れない様に支援を行っております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご本人様やご家族様からの要望に沿い、電話をつないで会話を楽しまれております。また、年賀状や絵手紙などの季節のお手紙に一言記入していただき、返信して頂くよう支援を行っております。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	食堂兼リビングは自然の光が入り落ち着いた雰囲気になっています。その月の季節感が感じられる手作りカレンダーや行事写真の掲示を行い、季節を感じていただいています。リビングには温度計を置き、季節に合った適切な温度で過ごして頂ける配慮をしています。	玄関ホールと吹き抜けの幅広い階段スペースは解放感が感じられます。共有部も清潔さが保たれ、居心地の良い環境となっています。室温は年間通して28度に設定してあり、利用者が暑い寒いという場合は着衣で調節しています。ドアは、車いすの出入りが可能な幅となっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ゆったりとくつろげる空間としてソファを用意しています。テレビを見ながら会話を楽しんで頂いています。お一人でゆっくりと過ごされたい方はリビングから少し死角になる場所でテレビをご覧になりながらゆっくり過ごされる空間の提供を行っています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室にはエアコン・ベッド・クローゼットを備え付けております。使いなれた家具や親しみのある物を居室に置く事でご自分の為の空間だと認識して頂いております。入口には顔写真付きの表札を貼り、ご自分の部屋だと認識できるようにしています。	大きな布に家族の写真を印刷して飾っている人や、鏡台などの使い慣れた馴染みのものを置いている人など、利用者本人が心地よい居室づくりをしています。居室の表札は、顔写真やレクリエーションで作った月見の絵皿を飾っています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	更衣、排泄、入浴などその人が出来る事を把握して自立して行為をおこなえるよう声かけ等で上手く導き、支援を行っております。その人が持つる能力を最大限に活かせるよう職員間で情報共有を行っております。		

事業所名	グループホームちいさな手 海老名ふれあいの丘
ユニット名	2階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えています。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	法人の理念を掲げたクレドカードを毎朝の申し送り後、声を出して読むことにより、職員同士確認を行いながら日々の業務に取り入れ、浸透するように努めております。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	自治会に加入し、回覧板を頂く事で、地域での催しものや他の施設の行事などに参加させていただいたり、ホーム内のレクの参加の声かけを行っております。コミュニティーセンター様からは良く椅子などをレンタルし、レクへの参加のお誘いをしています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	職員に認知症について日々のケアの中や会議などで勉強会を設けて実践内容を学び、いつでも活かせるように理解度を深めております。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	自治会の役員、民生委員、海老名市役所、高齢介護課、地域包括支援センター、職員、ご家族、ホーム職員で運営推進会議を開催し情報交換や助言を頂きながら行っております。また、市議会議員の方からも参加したいとのお声を頂き、参加していただきました。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議の案内状と議事録の作成時には直接海老名市役所へ出向き、ホームの状況を説明させていただいております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	門扉を開放しておりますので、玄関は施錠をしております。1階と2階のフロアを行き来できるようにフロアの出入り口の施錠は行っておらず、自由に行き来できるようにしております。3ヵ月に一回身体拘束に関しての会議を開催し、職員に周知をしております。身体拘束は行っておりません。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	毎月全体会議、フロア会議を開催し、虐待について検討を行っております。管理者はホーム内での虐待の見逃しがないかを日々確認しております。小さな打ち身も見つけた時はヒヤリハット報告書を作成し検討、周知を行っております。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している。	成年後見人制度を必要とするケースには、管理者が対応をしております。必要に応じて随時職員に説明を行い、利用者の支援に結びつけております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には契約書、重要事項説明書を説明し、不安や疑問を伺い回答させていただいた上でご理解、納得をしていただき、同意書をいただいております。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族会において意見をいただいております。来訪された際やお電話でもご意見を頂いております。頂いた意見は全体会議の議題として検討を行っております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	随時、職員に声を掛け、傾聴を行っております。毎月1階と2階のフロア会議を行い、意見や提案を発言していただいております。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員のストレスや疲労の要因に気を配りながら声かけを行い、日々の様子に注意を払っております。また、職員のやりがいに繋がるようにパート職員の社員昇給も行っております。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	外部研修の情報集めに努め、職員の力量に応じ研修参加を促し、勤務状況を調整しています。介護技術の向上においてはミーティングで説明を行ったり、実践の中で一緒に取り組みながら指導を行っております。また疑問を口に出せる環境作りを行っております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	近隣のグループホームの催し物や高齢者施設での催し物に参加させていただき、同業者との交流を行っております。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	御入居までの生活状態の把握とご本人の意向、思いを考慮したケアを行い、安心して生活して頂けるように職員との関係づくりを大切に、何でも言って頂けるような関係作りを行っております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族様が求めているものや苦勞、困っていること、これまでの経緯についてゆっくりと話を伺い、事業所としてはどのような対応ができるか、その都度色々な情報を伝えながらご家族様との信頼関係づくりを行っております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人様やご家族様の思い、その時の状況等を確認し、安心して頂き、納得してご利用していただけるよう可能な限り柔軟なサービスの情報提供を行っております。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	ご入居者様を人生の先輩という共通の認識のもと、日々の生活で喜怒哀楽を共にし、信頼関係を築けるように努めております。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	居室担当を決め、職員がご家族様に日々の様子や心身の変化を手紙にしたため、毎月お伝えしていく事でご家族様と情報の共有を行っております。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご入居者様が築き上げてきた交流関係を把握していき、訪問時には楽しい時間を過ごして頂けるようにしております。また、ご入居前に行っていた活動もそのまま継続できるよう支援を行っております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	日々の生活で楽しい時間を過ごしていただく為、ご利用者様同士の関係性を職員が共有し、レクリエーションや食事などお席へ誘導する際には親しいご入居者様同士が近くのお席になるように努めております。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	他の事業所に移られたご入居者様が不安なく継続性を持って生活できるようにアセスメントを細かく作成し、情報提供を行い、連絡があった際は速やかに対応して連携できるように努めております。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご利用者様をご自分で選択できるような声かけを行っております。また、思い出を引き出すような会話を心がけております。ご自分の思いをうまく伝えられない方には、表情や仕草などを観察したり、ご家族様に聞くなどをして思いを推し量っております。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前に本人やご家族様に話しを伺ったり、担当されていたケアマネジャーさんより電話や書式にて生活歴やご家族様の意向を伺い、情報収集を行っております。知り得た情報は職員間で共有し、なるべく同じような環境で過ごせるよう支援をしております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	生活記録の中に職員との会話や日々のご利用者様の様子を記入しております。看護師からの連携事項や、一日のご利用者様の様子を職員間で引継ぎ、情報共有を行い、ご利用者様の現状把握に努めております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ご利用者様、ご家族様の希望を聞き入れながら医療関係者の意見を取り入れて三ヶ月ごとのカンファレンス、六ヶ月ごとのケアプランを作成しております。支援方法等、変化があった時はその都度作成をしております。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ケアプランにナンバリングを行い、ケアプランに沿った計画ができるように努めております。生活記録のファイルに作成したケアプランの用紙を入れ、必要なサービスの確認を行い、職員間で情報共有をしております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご本人様の意向、ご家族様の同意を得ながら買い物を楽しんで頂いております。また、通院や送迎等必要な支援にも個々の満足を高められる様、臨機応変に対応しております。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域でのお祭りやイベントに参加しております。また、事業所でのイベントに地域の方々のご協力を頂いたり、地域の集いに参加し、意見交流する機会を設けております。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	定期的な往診を受け、体調の変化等の相談を行いながら指示を頂いております。専門的な受診が必要な時は、ご家族様の協力を頂いたり、ご家族様の同行が困難な場合は職員が通院支援を行っております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週に2日の訪問があります。ご利用者様ごとに診て頂きたい事案を看護記録用紙記入し、日々の気づきを残し、看護師にアドバイスを受けています。看護記録を作成し、職員間で共有しております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者様が入院した際、看護サマリーを作成し、情報交換をしております。病院に様子を見に伺い、その都度様子を伺い、退院に向けた話し合いに参加させていただいております。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ご家族様に現状を説明し、同意書を交わし、今後の方針を主治医、看護師、管理者、職員が連携を密に取りながら対応を行っております。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変や事故発生時には、まず何をすべきか、オンコール対応策を作成し、毎月の会議にて再確認を行い職員全員が把握できるようにしております。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	ご利用者様の安全確保ができるよう、夜間の想定を含め、年2回の避難訓練を実施しております。避難場所には近隣のコミュニティーセンターを利用させていただき、事を自治会より了承を頂いております。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	人生の先輩として常に誠意を持って誠実に接する事を心がけてケアを行っております。一人ひとりの得意な事を把握し、能力を発揮して頂くよう支援を行っております。また、不快な思いを感じさせないような声かけを心がけております。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご利用様が何でも話せる環境作りに努めており、ご自分で選択できるような声かけを行っております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	その日の体調や様子の変化見逃さないよう職員間で確認を行い、その日、その時のご本人の意向を優先し、ご利用者様のペースに沿って一緒に生活を行っております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	その日の体調や様子を伺いながら、ご本人の意向を優先し、ご利用者様がして頂きたい内容に沿えるような支援を行っております。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	メニューと食材は業者に依頼し調理、盛り付け、配膳、下膳など一緒に行っています。ご利用者様の要望あればメニュー変更も可能です。菜園の野菜と一緒に収穫し、調理を行っています。同じテーブルを囲みながら楽しく食事ができるよう支援を行っています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一人ひとりの状態にあった食事、水分摂取量を確認し、チェック表に記入しながら職員間で情報共有しております。しっかりと食事や水分が摂取出来る様に一人ひとりの好みや症状にあった提供を行っております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後声かけを行い、口腔ケアを行っております。仕上げの介助の必要な方は職員が確認を行っております。口腔ケアの介助が必要な方は口の中の状態を常に把握し、職員同士情報共有を行っております。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	「In/Outチェック表」により水分量・食事量と排泄パターンを一覧表に記録し、声かけによる前誘導を行いながら自立排泄が行えるように支援しております。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排便チェック表を記入していき、排泄管理を行っております。自然な排便が行えるように毎朝体操を行ったり、歩いて腸内を活性化させております。また乳酸菌を飲用していただき、水分摂取量に注意を払いながら支援を行っております。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	基本的に週に2回の入浴を支援しております。毎日入浴が可能であり、希望に応じて調整しながら対応をしております。入浴の際には職員との会話も楽しんでいただけるように努めております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	ご本人の意思で過ごす場所を選択して頂き休んで頂いております。過ごされる空間が快適に安心して過ごせるようプライバシーに配慮し、環境調整を確保しております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	処方されている服薬の用法を往診時に主治医又は看護師から説明して頂き、薬剤師にも質問できる機会があります。服薬に追加や変更があった際、そのご利用者様の様子を記録に残し、職員間で周知し、情報共有を行っております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	一人ひとりの得意な事、嗜好の好みを把握し、日々の生活に取り入れ役割を感じてもらえるよう支援を行ったり、趣味を通じて他者様との交流を楽しんでいただいております。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	週に2～3回の外出の機会があり、事業所近くの神社やお寺が散歩コースです。車でのドライブや外食、買い物などの支援も頻繁に行っています。事業所内での菜園では季節の野菜の植えから収穫までの流れを行い、戸外の楽しみも充実しています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	買い物や外食には職員が付き添います。ご本人が自らお会計をすることにより、お金に対する大切さを感じて頂く、以前行っていた動作を忘れない様に支援を行っております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご本人様やご家族様からの要望に沿い、電話をつないで会話を楽しまれております。また、年賀状や絵手紙などの季節のお手紙に一言記入していただき、返信して頂くよう支援を行っております。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	食堂兼リビングは自然の光が入り落ち着いた雰囲気になっています。その月の季節感が感じられる手作りカレンダーや行事写真の掲示を行い、季節を感じていただいています。リビングには温度計を置き、季節に合った適切な温度で過ごして頂ける配慮をしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ゆったりとくつろげる空間としてソファを用意しています。テレビを見ながら会話を楽しんで頂いています。お一人でゆっくりと過ごされたい方はリビングから少し死角になる場所でテレビをご覧になりながらゆっくり過ごされる空間の提供を行っております。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室にはエアコン・ベッド・クローゼットを備え付けております。使いたれた家具や親しみのある物を居室に置く事でご自分の為の空間だと認識して頂いております。入口には顔写真付きの表札を貼り、ご自分の部屋だと認識できるようにしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	更衣、排泄、入浴などその人が出来る事を把握して自立して行為をおこなえるよう声かけ等で上手く導き、支援を行っております。その人が持つる能力を最大限に活かせるよう職員間で情報共有を行っております。		

平成30年度

目標達成計画

事業所名 ケル-70ホーム ちいさな手 海老名ふくあいの丘

作成日: 平成30年11月20日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期
1	10	日常の散歩や外出の機会を増やしてほしいという家族の要望あります 再確認し、実践の見え方化など家族の理解を得る工夫を行う。	天気の良、日は外出し、四季を感じていただく。	夏休み、散歩に行きやすい気候にた、7参りました。ご入居者様の体調と相談して外出を増やしたいと思っております。	1ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月